

新聞を活用しての日々の実践 定点観測「同じテーマで追いかけて」

兵庫県立伊丹高等学校 校長 秋田 久子

教諭 柘田 安史

1. はじめに

○本校のN I E

本校は平成 24 年度から実践校の指定を受け、本年度は 3 年目の奨励校としての実践となった。各学年の総合的な学習の時間の中での取り組みと、広報委員を中心とした日々の取り組み、2 年生で行った定点観測「同じテーマで追いかけて」の実践に関して報告する。

○新聞の置き場所と整理の方法

本年度も、1 年間を通じての購読のために、5～7 月と 9 月は 3 紙（朝日・産経・神戸）、10～1 月に 3 紙（毎日・日経・読売）とした。

新聞の置き場所は昨年、一昨年と変わらず、本校の小会議室前の廊下とした。北館と本館を結ぶこの 2 階廊下は、生徒の生活動線となっており、大机と、折り畳み式の机（2 台×3 台）、新聞収納用のロッカーを本年度も利用した。

毎日の新聞の整理は、本年度も広報委員（各クラス 2 人）が持ち回りで行った。毎日届けられる新聞（朝・夕刊延べ 6 紙）を事務室前から置き場所へ持っていき、その際に自分たちの気になる記事を切り取り、掲示板に貼っていった。新聞は最新の 1 週間分の朝・夕刊はロッカーの上に、古いものは整理してロッカーの中に保管した。



小会議室前廊下 保管用ロッカー



広報委員用掲示板

(例) 2015 年 1 月 1 年広報委員が選ぶ今日の 1 枚

「U S J 最速 1000 万人」「税込増 痛み先送り」
「舒明天皇『滑谷岡陵』か」「『1.17』刻んだ大地」
「野々村氏を書類送検」「錦織、冷静に完勝」
「迫る『72 時間』交渉探る」「政府 メールで交渉図る」

広報委員会を学期に一度開催し、順序を決め確認すると、後は生徒同士の連絡で 1 年間、ほぼうまく新聞は整理された。

2. 本校での実践の内容

1年の取り組み

本年度は、生徒の校区である伊丹・猪名川・川西の地域を中心に、調べ学習を展開したため、新聞を利用しての具体的な活動は行わなかったが、昨年に引き続き「NIE記者派遣」を1年生全員対象で行った。2学期に産経新聞社神戸総局長である堀洋氏を招き、「新聞記者の視点と役割」というテーマで、医療現場での取材の経験から、新聞の果たす役割について講演していただいた。

2年の取り組み

[2年] 「定点観測」プレゼンテーション

[活動内容]

「定点観測」毎日の新聞記事から各班が決めたテーマを追いかけ、その変化・結果をまとめ発表する。

[活動のポイント]

- ・ 日常の学習やクラブ活動に支障が出ないよう、できる限り時間をかけ過ぎず、また新聞を読むことを日常の生活の一部にさせる。
- ・ グループでの作業や話し合う中で、生徒が主体的に活動を進める。

(1) 4月 1時間

今回の活動内容のオリエンテーションを文系5クラスでテーマを決めさせる。ジャンルを次の7項目の範囲とする。

- ①国際 ②医療・福祉 ③経済 ④政治
- ⑤教育 ⑥自然科学・環境 ⑦文化・歴史

1クラスを基本的に4人1組で10班を作る。

(2) 5～7月

班ごとに、テーマに関する新聞記事を1人週1枚以上の新聞記事を集める。

5～7月で12枚以上。新聞名と内容が分かるようにしておく。

(3) 総合学習 5月に3時間

「表現ノート」を利用しながら、どう話し合うか、どう問題点に対して深めていくかの手法を学び、その授業の一部にNIEに関することを班ごとに話し合う。

(4) 7・8 (9月)

○壁新聞作成→模造紙(定型の半分)に記事を貼る。※注:掲載は3枚(序・本・結論)もしくは4枚(起承転結)とする。

○発表原稿作成「感想・結果・今後の予想」を初めて聞く人に分かりやすくすること。



(5) 9月11日 クラス発表

夏季休業が終わり、授業時間は取らず準備は班ごとに放課後の時間を利用するなどしながら壁新聞で発表。各クラスから優秀班を

選出した。

(6) 10月2日 優秀班の全体発表

9月の発表で選出された10班は、前回の5月から8月の内容の壁新聞に、9月の出来事を新聞から必ず加えて原稿を作成し、発表した。

披露の場を意識させるために、スクリーンを使っての発表とする。基本的には壁新聞を、ビデオカメラを使用してスクリーンに映写させる形にしたが、ほとんどの班(10班中8班)ではパワーポイントに作り替えての発表となった。



全体発表の様子



↑ PPを作成せず、壁新聞をビデオカメラで写す



パワーポイントでの発表



【発表したテーマ】

- ① 2組E班 「大阪都構想 (大阪の政治)」
- ② 1組4班 「高校教育について」
- ③ 5組8班 「電力危機 原子力発電の担い手」
- ④ 5組4班 「ブラジルワールドカップが与える経済効果」
- ⑤ 4組3班 「国際—世界で起こっている事」
- ⑥ 2組G班 「うつ病の現在・過去・未来」
- ⑦ 1組1班 「世界のニュース 国際的な争い」
- ⑧ 3組3A班 「経済—貿易 TPP」
- ⑨ 3組1A班 「国際—LOVE & PEACE」
- ⑩ 4組6班 「教育—教育について」

どの内容も2年生としての深まりを見せ、全体の場で共有できたことは、社会の中での自己を認識し、また進路意識を向上させる意味でも良い機会となった。共有という点では、50枚の壁新聞を10月の2週間、2年生の廊下に全て掲示し、理系も含めた全員でさまざまなテーマに関して意識することができた。

壁新聞は①「定点観測」になっているか? (テーマについて追いかけて、その変化・結果をまとめているか) ②レイアウトはどうか? の二つの観点から、広報委員と教員とで採点し、順位を決めた。

校長先生のコーナー



生徒昇降口からHR教室のある本館へと続く生徒たちの一番の生活動線である本館1階入り口に「校長先生より」という新聞記事のコーナーがある。週に1、2回の頻度で校長先生がその時々の特ピックや、生徒に読んでほしい記事などが掲示され、生徒や教員が足を止めて記事に見入っていた。

宮古島～沖縄 修学旅行に向けて

本年度から修学旅行先が北海道から変更になりNIE活動の一環として、沖縄の『琉球新報』を1カ月購読した。日々の沖縄の記事に加え、11月には沖縄県知事選の流れも紹介することができた。新聞記事は、本校中央階段の踊り場を中心に掲示した。



記事見出し

「かりゆし生産 45 万枚」「シークァーサー大量処分か」「イルカのフジ死ぬ」「苦難の歴史超え イゲさんハワイ知事当選」など



反省と今後への課題

本年度は広報委員を中心に日々の新聞の整理などを主体的に取り組ませることができた。総合的な学習の時間を中心に、さらに学校全体で新聞を取り入れた授業を実施した。また3年目ということもあり、先生方の間でも新聞学習に対する話題が増えるようになった。

また、日本新聞協会が主催する「第5回いっしょに読もう！新聞コンクール」にも1・2年生全員が参加し、学校奨励賞と1年生で奨励賞を受賞した。

今後は本校の教育課題でもある、生徒が自主的に考え、視野を広げ社会の一員として行動していきけるよう、その社会との接点に触れるきっかけとして新聞を積極的に取り入れる授業の企画、また広報委員や先生方での新聞の発行を促すなど、楽しみながら新聞と親しむ工夫もさらに重ねていきたい。